

令和7年度第1回柳井警察署協議会会議録

開催日時		令和7年6月26日(木) 午後3時30分から午後5時までの間
開催場所		柳井警察署講堂
出席者	委員	財満委員、西山委員、嬉委員、末廣委員、亀田委員、岡村委員、山村委員、秋元委員、大村委員 計 9名
	警察署	署長、副署長、主幹、警務課長、生活安全課長、地域第一兼第二課長、地域第三課長、刑事課長、交通課長、警備課長 計 10名
議題		1 警察業務の推進状況 2 匿名・流動型犯罪グループによる犯罪から県民を守るための対策
1 会長挨拶 私は、2年前に柳井警察署協議会委員となり、1期2年の任期を終え、今回、2期3年目に入ったところであるが、3期となる先輩委員がいないこともあって、私が会長に就任するに至った。 会長の任に就くことになったからには、委員の期間の長短等言わず、一生懸命に務めて今後の警察署運営に役立つような意見を述べていきたいと思っている。 新体制では、委員9人中7人が新たに委員に選出されたが、これまでと同様に遠慮のない積極的な意見を述べていただきたいと思う。		
2 署長挨拶 (省略)		
3 業務説明 (1) 犯罪から住民を守る対策の推進状況 ア 刑法犯の認知件数 イ うそ電話詐欺等の認知状況		

- ウ 犯罪抑止に向けた主な取組
 - エ 刑法犯の検挙状況
 - オ 主な検挙事件
- (2) 安全な交通を確保するための取組
- ア 交通事故の発生状況
 - イ 交通事故抑止に向けた主な取組
- (3) 地域住民の安全・安心確保のための取組
- ア 110番通報の受理状況
 - イ 警察安全相談の受理状況

4 質問事項の質疑応答

匿名・流動型犯罪グループによる犯罪から県民を守るための対策
(委員)

例えば、詐欺事件の被害金額が100万円の場合、1度に振り込み可能な金額の上限は50万円くらいと制限が設けられているが、複数回に分けて振り込んでいるということか。

(生活安全課長)

ATMで1度に振り込みができる金額の上限については各金融機関で定められており、50万円や100万円などの制限がかけられている。

ただし、ネットバンキングなどにより、サイバー空間で限度額を解除して入金や振り込みをさせる手口も認知している。

(委員)

各銀行が協力して振り込み金額の上限を引き下げるとはできないのか。

投資詐欺などの被害に遭うような方は、自分は一流の投資家だと思っており、騙されてないと信じ込んでいる人が多いのだと思う。

(生活安全課長)

各金融機関との協力関係は構築している。警察と協定を結んでいる金融機関もあり、情報提供もいただいている。

今後、このような体制をメガバンクにも拡大し、今後の事件発生を未然に防ぐよう協力していく。

(委員)

毎日のように、新聞で詐欺事件に関する記事を見ており、それほど頻繁に被害が発生していることに驚いている。

1回ではなく複数回の振り込みをしていることや、騙されないとあっていても被害者になってしまうことからも、被害に遭う前に一度自身の行動を考え直さなくてはならない。

(生活安全課長)

送金した後で被害に気が付くため、被害を防ぐには電話に出ないことが大切である。

犯人側は、被害者が他の人に相談させないようにし、国際電話から架けてくるな

どの特徴が見られるので、そのような犯罪手口を周知するために、積極的な広報活動を実施していく。

還付金詐欺は、税金の払い戻しがあるからなど虚偽の情報を伝え、ATMに行くよう誘導し送金させる手口であるが、このような誰でも知っているはずの手口でさえ騙されている。

(委員)

被害に遭わないと思い込んでいる人が多いと一向に被害はなくならない。

薬物関連で言われている「ダメ絶対！」などのように、防犯教育を小さな頃からすべきだと思う。

可能な限り、事例をユーチューブ等活用して紹介し、子供たちが積極的に目にするところにおける防犯教育も効果的だと思う。

(委員)

子供たちが好きなゲーム感覚で見れるような動画があれば良いのではないか。

(生活安全課長)

言われるとおり、年齢が若い頃からしっかりと教育することは重要である。

現在、小さな子供でもスマートフォンを所持しており、警察官が学校に出向き、被害に遭わないための上手な付き合い方として、情報モラル教室を実施している。

授業参観時にこのモラル教室を行い、親子に対して教育する機会も増えている。

また、子供がゲーム等で利用する電子マネーカードを騙し取る手口もあり、電子マネーカードを販売するコンビニエンスストア等との連携を強化し、被害防止に努めている。

(委員)

先日、職場の固定電話に「2時間後に電話が使えなくなる」と電話が架かってきた。明らかに詐欺と分かったので相手にしなかったが、被害に遭う方は、相手に焦らされてしまうのだと思う。

(委員)

Amazonカードを購入するお客様に対応することが多く、「詐欺の可能性はないですか」「騙されていませんか」などと声掛けをしているが、「大丈夫です」と答えられるので、販売している。

しかしながら、30分程度で繰り返し購入されようとしたお客様には、不審性を説明して購入をやめさせたこともある。

(生活安全課長)

昨日のことであるが、このような電話が当署管内1市4町で10件以上も架かっている状況にある。

SNSやXで「NTT騙り」について情報発信しているが、以前と状況は違い、いつの間にか自分の情報が漏れている、他人に知られているといった状況にあるので、その点についてもしっかりと広報が必要だと思う。

(委員)

外国から架かってくる電話については、最初の番号が「84」など、日本国内からの電話番号と違いがあるので、その点の広報をすれば良いではないだろうか。

(生活安全課長)

防犯機能付き電話であれば、通話を録音するという機能が付いているので、電話機能の紹介についても広報していく。

(委員)

本日のテーマについて事前に調べたことで、自宅の固定電話だけではなく携帯電話にも架かってくることを知った。やはり、防犯機能付き電話については有効な防止対策だと感じた。

「防犯だより」などを活用すると共に「#9110」や最寄りの警察署へ相談するよう広報すべきだと思う。

(生活安全課長)

以前は、警察署のメールマガジンで発信していたが、今はSNSを利用して警察の取組状況等を情報発信しており、QRコードを読み込んでの登録を依頼している。

(委員)

最近の手口として、「警察官を騙る」手口が多いと聞くが、国民が信頼している警察を名乗れば信用してしまうので、その点の対策を早めにすべきだと思う。

さらに、高齢者が集まる会合等においてDVD視聴をさせれば、防犯的なこともより伝わると思うがいかがか。

(委員)

高齢者については、架かってきた電話に律義に応じてしまうため被害に遭うことが多いと思うが、留守番電話機能の活用や知らない電話番号からの着信には出ないといった広報が必要だと思う。

また、低年齢からの教育が大事という話が出たが、これに加えて、小学生程度の子供に帰って家族みんなにも伝えるようお願いすると、より効果的だと考える。

(生活安全課長)

子供たちに家族にも伝えるようお願いすることは、防犯意識を高めるためにも非常に良いことだと思うので、参考とさせていただく。

5 配布資料

業務説明資料（警察署作成）

6 その他

(1) 監察関係事案説明

令和7年3月及び令和7年5月における警察職員の懲戒処分事案について説明した。

(2) 次回日程

次回警察署協議会は令和7年10月頃に開催予定とした。